

# 感染症

## Infectious Diseases

コース責任者

感染症学教授 國島 広之

### 1. 学習目標

#### 1) 一般目標(GIO)

3学年までの各臓器別コースでの感染症講義に続いて、本「感染症コース」では系統的に一年かけて総合学習する。すなわち、感染症の概念、診断へのアプローチ、化学療法、感染予防を理解し、主な感染症の病態生理、症候、診断と治療さらに話題の感染症を学ぶ。

- ① 基礎系ユニットとして、感染症の原因、病態生理を理解し、診断へのアプローチ、化学療法、予防について理解する。
- ② 臨床系ユニットとして、主な感染症の原因、病態生理、症候、診断と治療を理解する。
- ③ 話題の感染症ユニットとして、感染症を契機に特殊な病態を呈する疾患、話題の感染症を理解する。

#### 2) 行動目標(SBOs)

基礎系ユニットとして

- ① 主な感染症の原因となる病原体を分類し、その特徴を概説できる。
- ② 感染経路による感染症の分類をし、その予防策を概説できる。
- ③ 新興・再興感染症およびバイオテロに関する伝播性疾患を説明できる。
- ④ 病原体に対する生体の反応を説明できる。
- ⑤ 感染症診断における微生物学的検査の重要性を説明できる。
- ⑥ 感染症の臨床的診断アプローチを説明できる。
- ⑦ 感染症の化学療法を概説できる。
- ⑧ 小児の化学療法の特殊性を説明できる。
- ⑨ 院内感染制御において重要な感染症を列挙し、概説できる。
- ⑩ 病院内感染予防に必要な基本的な対策を説明できる。
- ⑪ 感染症新法や、結核予防法などに基づく疫学的感染症対策を概説できる。
- ⑫ 予防接種と感染症新法について概説できる。

臨床系ユニットとして

- ① 敗血症の症候、診断と治療の基本を説明できる。
- ② 中枢神経系の感染症の原因、症候、診断と治療を説明できる。
- ③ 上気道感染症・下気道感染症の原因、症候、診断と治療を説明できる。
- ④ 下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
- ⑤ 性行為感染症(STD)を概説できる。

- ⑥ 外陰、膣と骨盤内感染症の症候、診断と治療を説明できる。
- ⑦ 関節炎、骨髄炎の症候、診断と治療を説明できる。
- ⑧ 皮膚感染症の原因、症候、診断と治療を説明できる。
- ⑨ 中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎の症候、診断と治療を説明できる。
- ⑩ 伝染性結膜疾患の症候、診断と合併症を説明できる。
- ⑪ 麻疹・風疹などの伝播性疾患の症候、診断と合併症を説明できる。
- ⑫ 流行性耳下腺炎・水痘・帯状ヘルペス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
- ⑬ 小児の感染症の特徴を説明できる。
- ⑭ A群レンサ球菌感染症の症候、診断と治療および合併症(急性腎炎、リウマチ熱)を含めて説明できる。
- ⑮ グラム陽性菌・陰性菌感染症、嫌気性菌感染症の症候、診断、治療について説明できる。

話題の感染症ユニットとして

- ① HIV の特性と感染細胞に起こる変化を説明できる。
- ② 血液由来の感染症について症候、診断と治療について説明できる。
- ③ ヘリコバクター・ピロリの細菌学的特徴をあげて、感染症の診断と治療を説明できる。
- ④ 結核菌の細菌学的特徴を説明し、結核の症候、診断、治療と予防について説明できる。
- ⑤ プリオンの特性と感染細胞に起こる変化を説明できる。また感染症の症候、診断と治療を説明できる。
- ⑥ パンデミックの病原体、症候、診断と治療について説明できる。
- ⑦ 非定型肺炎について疫学、症候、診断と治療について概説できる。
- ⑧ 感染性胃腸炎について疫学、症候、診断と治療について概説できる。
- ⑨ HTLV- I associated myelopathy(HAM)の症候、診断、治療を説明できる。

## 2. 学習内容

3学年までに各臓器別コースの中で感染症も個々に学習してきているが、本コースでは、系統的に総合的に学習し、横糸と縦糸を組み合わせ、感染症という布を織り上げて欲しい。感染症の最新情報も「話題の感染症」として組み込んだ。

個々の学習内容は行動目標と重複するので省略する。

## 3. 成績評価

本コースにおける評価は下記のごとく行う。

客観試験(多肢選択方法)により期末に試験を行う。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	100(%)	前期・後期期末試験期間中に実施する。

#### 4. 教科書

- 「ハリソン内科学 第5版」(メディカルサイエンスインターナショナル)2017年
- 「標準小児科学 第8版」(医学書院)2013年
- 「標準小児外科学 第7版」(医学書院)2017年
- 「標準感染症学 第2版」(医学書院)2004年
- 「標準血液病学」(医学書院)2000年
- 「標準神経病学第2版」(医学書院)2012年
- 「標準呼吸器病学」(医学書院)2000年
- 「標準皮膚科学第10版」(医学書院)2013年
- 「標準外科学第14版」(医学書院)2016年
- 「標準産科婦人科学第4版」(医学書院)2011年
- 「標準整形外科学第13版」(医学書院)2016年

#### 5. 準備学習

授業前に学習範囲を確認し、学ぶべき内容を把握して授業に臨むこと。授業後は学習内容の定着を徹底すること。

#### 6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
感染症学	教授	國島 広之	水曜日 10時～13時 要事前確認	明石会館 2階 感染症学教授室	2251(内線)